『実例で学ぶ 鉄筋コンクリート構造物の設計・製図』　正誤表

このたびはお買い上げ誠にありがとうございます。本書には、下記のような誤記がありました。お詫びして訂正いたします。

ページ	箇所	誤	正
43	「【2.3.1の解説②】純かぶりと芯かぶり」の3行目	…を芯かぶりと呼ぶ。示方書や基準などで…	…を芯かぶりと呼ぶが，耐荷力や応力度照査などでは、これをかぶりと表示していることも多い。示方書や基準などで…
69	表3.4の文献番号	表3.4　土の単位体積重量[2)]	表3.4　土の単位体積重量[1)]
94	図3.34（b） 図中の右端の数値	65.711	65.771
	図3.35（a） 図中の寸法の数値	1710	1740
96	上から12行目	…≦ τ_{al}	…≦ τ_{a1}
104	表3.27の「たて壁」の「鉄筋応力度σ_s〔N/mm^2〕の数値	155.778	115.778
115	外力表の項目eの「常時」の数値	滑動・転倒照査　支持力照査 0.322	滑動・転倒照査　支持力照査 0.322　　0.260
153	3行目 （Sの添え字）	$S_h = \tau_{a1}bd$	$S_{ca} = \tau_{a1}bd$
160	「【4.3.1〔1〕の解説②】鉄筋のかぶりとその目的」の最終行に追記	…のように規定されている（図4.40）。	…のように規定されている（図4.40）。（純かぶりと芯かぶりの違いについては，p.43の「【2.3.1の解説②】純かぶりと芯かぶり」にも記載しているので，参照のこと。本章では，RC断面の設計計算に用いる芯かぶりのことを鉄筋かぶりと記載している。）